

書写からひろがる, まなび, くらし

line

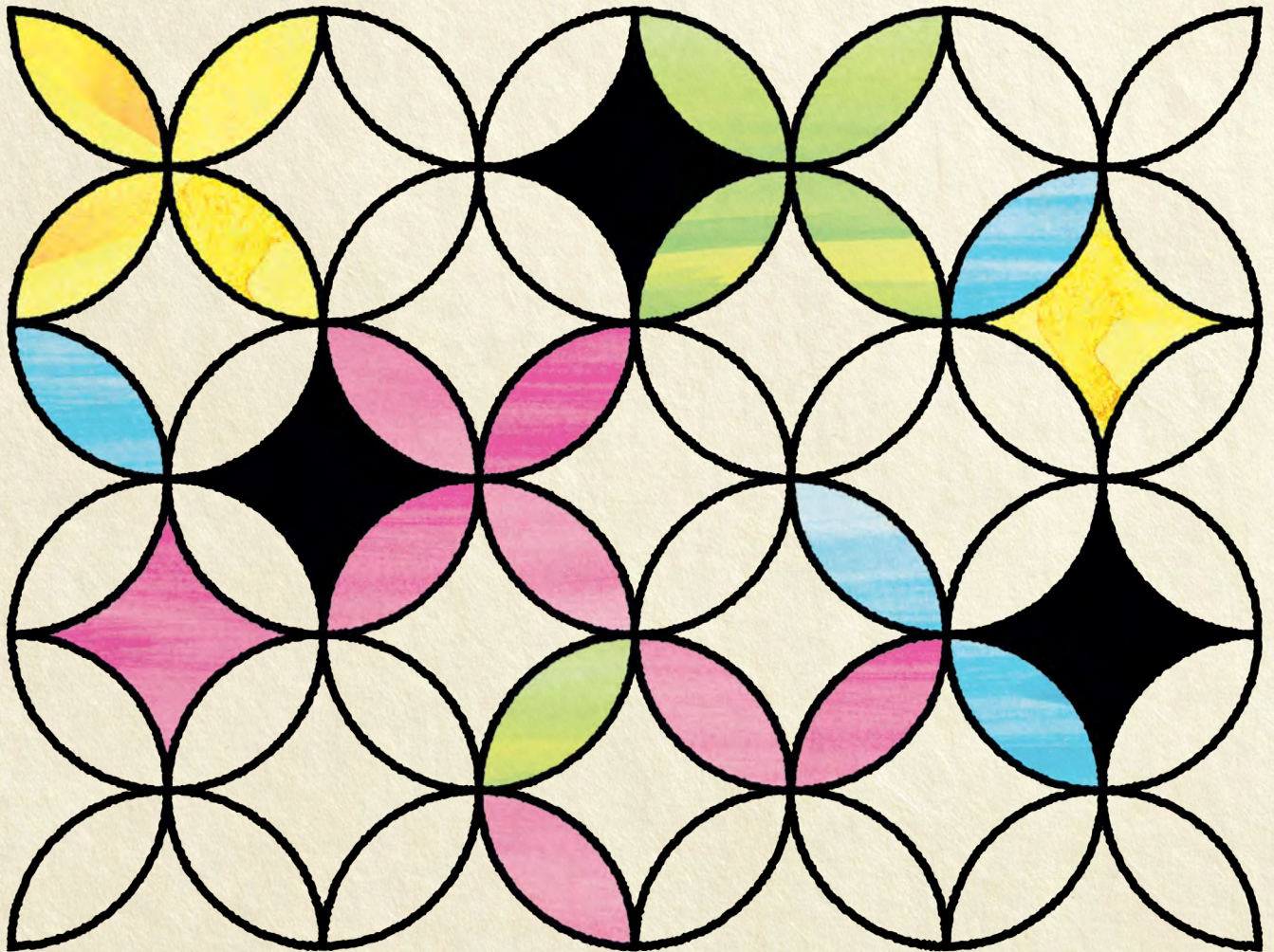
糸線

Special Feature

漢字を楽しく学ぶ。

漢検 漢字博物館・図書館

[漢字ミュージアム]・京都市



本資料は、「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

CONTENTS

Special Feature

漢字を楽しく学ぶ。 03

漢検 漢字博物館・図書館 [漢字ミュージアム]・京都市

これからの国語を考える

「語彙指導」と書写指導 連載 第一回 06

尾崎靖二

書写のココが知りたい!

Q. 筆使いの指導をどのようにしますか? 08

宮本榮信

やすみりえの五・七・五紀行

第一回 岡山県 久米南町に行く 10

やすみりえ

指導のミカタ ①

主体的に学ぶひらがな学習 12

山口大学教育学部附属山口小学校 西村光博先生

指導のミカタ ②

課題解決を図る学習過程への工夫 14

神奈川県横浜市立桜岡小学校 安間良子先生

指導のミカタ ③

水書用紙を使った書写学習について 16

奈良県生駒市立生駒南第二小学校 諸岡恭子先生

目指せ! 文房四宝博士 ①

奈良筆 奈良県奈良市 18

約1200年の伝統を受け継ぐ 日本の筆づくりの原点へ

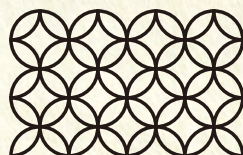
連載 第十回

コンドウアキの書写的生活 20

コンドウアキ

COVER design ART WORK

日本の伝統文様



【七宝】

しっぽう

七宝とは、円を連続的に四分の一ずつ重ね合わせた文様で、円と星形が繰り返すように見えます。名称の七宝は、仏教の七種の宝を示しています。

漢字を 楽しく学ぶ。

漢検 漢字博物館・図書館

[漢字ミュージアム]・京都市

line
Special Feature



約 20 以上の体験型展示が並ぶ2階フロア。企画展示や図書館、ワークショップルームも揃います。

書写を学ぶうえで、漢字は欠かせない要素のひとつです。子どもたちに漢字への興味を持ってもらい、学習効果につなげるためにはどうするべきか。新しく誕生した施設「漢字ミュージアム」を訪問して、漢字教育への試みについて話を伺ってきました。

さまざまな体験を通して漢字に親しむ
日本初の漢字ミュージアムへ

二〇一六年六月、京都市内に誕生した「漢字ミュージアム」は、日本初の漢字をテーマにしたミュージアムということで話題になっています。大勢の観光客でにぎわう四条通沿い、廃校となった京都市立弥栄中学校の跡地に開業しました。二フロアの施設で、小学生はもちろん、海外からの訪問も多く見られます。

館長であり日本漢字能力検定協会の理事長である高坂節三氏に話を伺うと、「当施設は、さまざまな体験を通して、漢字に親しみ、そして漢字を好きになってもらうことをコンセプトとしています。ゲーム感覚で学べるコーナーがたくさんあり、子どもたちは夢中になって遊びながら漢字を覚えていきますよ」と、博物館というよりはアミューズメントパークのような工夫を施しているようです。

オープン以降、京都だけでなく滋賀、大阪、兵庫から小学校の子どもたちが、課外活動としてたくさん訪れています。「施設の展示物は、すべての漢字にルビをふっていますので、小さい子どもたちでも楽しむことができます。また、体験シートを用意していて、スタ

DATA

漢検 漢字博物館・図書館 漢字ミュージアム



見て触れて遊んで漢字の魅力を発見する
体験型ミュージアム。

- 住所：京都市東山区祇園町南側 551 番地
- 電話：075-757-8686
- 開館時間：9:30～17:00（入館は 16:30 まで）
- 入館料：大人 800 円、大学生・高校生 500 円、中学生・小学生 300 円

ンプラリーのように五つのテーブルをまわりながら、甲骨文字や万葉仮名を学ぶ試みは、新しい気づきにつながっているようです。

他にも、企画展示やワークショップを定期的に開催して、漢字への新しい関わり方を提案。その斬新な発想に興味を抱いて訪問する教育関係者も多いといえます。



公益財団法人日本漢字能力検定協会 代表理事 会長兼理事長
であり、漢字ミュージアムの館長でもある高坂節三氏。



3



2



4



5



6

1「乾拓であそぼう」では、コインの上に紙を置いてこすると、日本や中国の古いコインにすり込まれた漢字がうきあがります。2 漢字の歴史を学べる30メートルの「漢字の歴史絵巻」。3「部首組み合わせタッチパネルかるた」はお題の部首にカードを組み合わせて漢字を作るタッチパネル式のゲーム。4 入り口にそびえる5万字の漢字が並ぶ柱「漢字5万字タワー」。5 大人気の「漢字回転すし」は回ってくるお皿をとって、クイズに挑戦! 6 大人から子どもまで盛り上がる「体で漢字をつくらう」。自分の体で文字をついたら撮影して、モニターのコレクションに登録します。

古代からの歴史を学びながら 漢字そのものに興味を持つ学習方法

漢字ミュージアムの一階に入ると、漢字がいったいどの柱が登場。これは「漢字五万文字タワー」といって、大漢和辞典に採録された五万文字の漢字を中心に書かれています。奥に進むと、漢字の起源とされる甲骨文字を学ぶ「踊る甲骨文字テンプル」が。テンプルに手をかざすと、現在の漢字から甲骨文字へと形が変わり、文字が移動していくものです。そして、フロアのメインとなるのが、全長三十メートルの絵巻で、漢字の歴史を学べるコーナー「漢字の歴史絵巻」。前半は中国での漢字の歴史、後半は日本でのように漢字が使われてきたかを紹介しています。

「甲骨文字から漢字が生まれて、ひらがな、かたかなへ変化していくなど、歴史といっしょに漢字を学ぶと、一段と興味が深まるのではないのでしょうか。」と、漢字単体の学習だけではなく、漢字への興味付けが大切だといいます。ワークショップでは、子どもたちに人気のある

ビーズアクセサリーを使って文字を作り、活字はドットでできていることを教える講座なども。ちまたの流行や他の教科と合わせて、漢字を学ぶことを推奨しています。

**楽しい遊びを取り入れて
知らぬ間に漢字の魅力を発見**

二階フロアは、約二十以上の体験型展示が並びます。中でも、小学生ぐらいの子どもたち



1

「漢字回転すし」の展示です。大画面には、いくつかの魚が泳いでいて、手元のモニターで流れてくる皿を一枚選ぶと、おすしのネタとなる魚の正しい漢字を選ぶクイズがスタート。また、体を使って漢字を表現する「体で漢字をつくらう」という展示は、ブース内に

ある壁の前に立ち、パーツのマグネットを使いながら、ポーズをつくって撮影します。いわゆる人文字なのですが、二人で協力することもでき、その楽しさに世代を問わず盛り上がっています。他にも、「部首組み合わせタッチパネルかるた」「象形文字を探し出そう」「暮らしの道具の漢字たち」など、競ったり調べたりして遊ぶ工夫の施された展示は、子どもからの注目度が高いようです。

そして、漢字の世界を広げるために、館内ではワークショップを定期的に開催しています。「拓本を取ろう!」「消しゴムはんこを作ろう!」「アイロンビーズで漢字!」「粘土で漢字を作ろう!」「漢字カルタを作ろう!」など、これまでの開催内容は多岐にわたっています。いずれも三〇分から一時間の講座内容で、当日に受付で申し込みれば入館料にプラスして教材費三〇〇円程度で参加できます。

不定期に開催する無料イベントもあり、年末年始には、書道家の日比野実氏による「小学生・中学生のための書き初め教室」を開催。季節に合わせた内容が好評を得ています。

今年の漢字®とは!?

日本漢字能力検定協会が、その年をイメージする漢字1字ごとの理由の公募を行い、その中で最も多かった漢字1字を、その年の世相を表す字であるとして、12月12日の「漢字の日」に、京都市東山区の清水寺で発表する。

2017

【キタ・ホク／にげる・そむく】



「北」朝鮮がミサイルを連発して、核・ミサイル問題が日本や世界に脅威を与えた。「北」海道産じゃがいも不足。「北」海道日本ハムファイターズの大谷翔平選手が移籍。「北」島三郎が馬主のキタサンブラックの活躍などが、選ばれた理由として挙げられた。

History

これまでの“今年の漢字®”

2016

金

【キン・コン／かね・かな・こがね】
リオ五輪に沸き、東京五輪に希望を託した「金」(キン)と、築地市場の豊洲移転問題など、政治と「金」(カネ)問題に揺れた年。スポーツ界に新たな「金」字塔、マイナス「金」利初導入などにも注目が集まった。

2015

安

【アン／やすい・やすんじる・いずくんぞ】
「安」全保障関連法案の審議で、与野党が対立。世界のテロ事件や異常気象など、人々を不「安」にさせた。建築偽装問題が発覚し、暮らしの「安」全が揺らいだ。「安」心して下さいが流行。

2014

税

【ゼイ・セイ／みつぎ】
消費「税」率が17年ぶりに引き上げられる。日用品や電車・バス・タクシーの運賃、電気・ガスなどの公共料金が値上がりして、家計への負担が増加。「税」について考えさせられた年。

2013

輪

【リン／わ】
日本全体のチームワークで2020年オリンピックの東京開催、富士山の世界文化遺産登録など、日本中が「輪」になって歓喜にわいた年。人とのつながりの「輪」を感じた1年となった。

2012

金

【キン・コン／かね・かな・こがね】
「金」に関する天文現象の当たり年。ロンドンオリンピックで日本史上最多のメダル獲得など、数多くの「金」字塔が打ち立てられた。年金資産運用の詐欺事件で「金」(かね)をめぐる問題も。



「今年の漢字®」をはじめ漢字一文字に込められた想いを漢字ミュージアムの運営母体である日本漢字能力検定協会では、漢字の普及活動を精力的に進めています。有名などころでは、毎年年末に清水寺にて発表される「今年の漢字®」。「漢字には、一文字でも多くのイメージを広げることができます。二〇一七年の今年の漢字®『北』は、北朝鮮、北海道、キタサンブラックなど、受け止める人によって意味

インターネット社会への対応など漢検協会による普及活動を推進

はさまざま。英語にはない魅力です」と高坂館長はいます。今までで十六万五千を超える応募があるという「今、あなたに贈りたい漢字コンテスト」も、同じように漢字への想いにあふれています。祖母に贈る漢字、父母に贈る漢字など、その理由を含めて審査するものです。



7 「くらしの道具の漢字たち」は引き出しの中に答えが。8 これで魚偏の漢字が覚えられる! 「巨大湯飲み記念撮影コーナー」。9 「今年の漢字®」の企画展を期間限定で開催。京都清水寺の森清範貴主の揮毫による大書を展示。1995年の開始以来、歴代の漢字一文字が並びます。

「漢字ペディアは、当協会発行の『漢検漢字辞典』の内容を無料でインターネット上に提供・公開しています。他社の広告がないサイトですので、学校でも活用しやすいと好評を得ています」と、漢字の新しい普及活動にも力が入っているようです。漢字ひとつでも、これほど多角的な情報発信があり、学べるアイデアがあることに、驚かされるのではないのでしょうか。子どもたちが楽しく学ぶための工夫は、普段の現場でも参考にしていただけたらと思います。

「語彙指導」と書写指導

連載
第一回

前回の連載では、アクティブ・ラーニングを視点とし論じてきた。今回は、新学習指導要領のうち、中央教育審議会答申（以下、答申）で言及のある内容の見直しを求められた箇所について書写指導との関連から取り上げて考えてみたい。

その中でも、「三つの柱」による整理を経て、「知識及び技能」に低・中・高学年と明確に位置付けられた語彙指導について取り上げたい。答申の指摘箇所を引用する。

特に、小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがあるとの指摘がなされている。また、考えを形成し深める力を身に付ける上で、思考を深めたり、活性化させたりしていくための語彙を豊かにすることが必要である。小学校低学年で表れた学力差が、その後の学力差に大きく影響していることを踏まえると、語彙を増やしたり語彙力を伸ばしたりする指導の改善・充実が重要である（後略）

答申を受けて、学習指導要領の低学年では「身近なことを表す語句」、中学年では「様子や行動、気持ちや性格を表す語句」、高学年では「思考に関わる語句」のそれぞれの量を増し、話や文章の中で使うことが位置付けられている。中でも、低学年は、その後の学力差の拡大や学習の質に大きく関わることから指導上の配慮の必要性が強調されている。

それでは、低学年ではどのような語彙指導が有効であるのか、書写指導との関連を図りながら実践を基に考えていきたい。

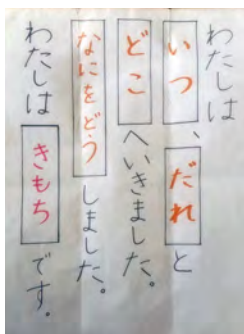
1 感想語彙の指導

低学年で活発に行われているのが、朝のスピーチタイムや体験報告文を書く活動である。何れも子どもたちは、話や文章のまともに感想語彙を配して終わりにしている。その代表的なものが、「たのしかった」「おもしろかった」「よかった」だ。密かに、まよめの御三家と呼ぶ先生もいる程に「定着」している。

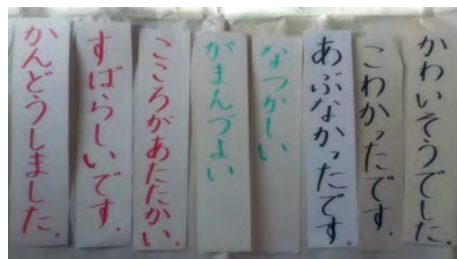
これでは、語彙の量が増えないばかりか豊かな感性も育たない。そこで、一年生の一学期からでも取り組める方法を紹介したい。

話型を背面黒板に掲示し、それを見ながらスピーチをさせる。ここまでは、どの先生も実践なさっていることであろう。この話型に写真のように気持ちを話す□（枠）を設けるのだ。

さらに、子どもたちが、発表するたびに、その感想語彙を記録し掲示してやる。同じものは、カードの裏に名前を書いてやり、新たな語彙には新しいカードに記録して今までのカードの横に掲示していく。



これを丁寧に繰り返していく。たったこれだけのことだが、一年の終わりには三〇〇近い語彙となっている。言葉の豊かさに触れた子どもたちは、より自分の気持ちにマッチした語彙を探し続ける。そして、感想語彙を感想語彙によって修飾する作業を始める。例えば、「ほかほかとおちついたうれしききもちです。」といったことを話すようになる。この子どもた



ちは、あらゆる場面で感想語彙を駆使する。外国からの留学生に踊りを披露してもらったときのことだ。子どもたちは御礼のコメントに豊かな感想語彙を使って感謝した。これを聞いた留学生を紹介して下さったD大学の言語学の先生が、その語彙力に驚かれたぐらいだ。

これらの語彙を定着させる作業に書写力が欠かせない。新しい語彙を使った子どもは今まで先生がカードに書いていた作業を自ら行うという名誉を頂戴する。

しかも、書く際には、プラスの言葉かマイナスの言葉か中間の言葉かを判断して、色鉛筆（マーカー）を使って定められた色で書いていく。もちろん、字形や配置、筆記用具の特色に気をつけて丁寧に書くことは言うまでもない。こんな真剣な場こそが書写活動には欠かせない。みんなが一定の量の感想語彙を使った時点で、掲示された多くのカードを見ながら一枚の紙に各自が丁寧に書き写し「自分の語彙表」にする。この語彙表が何枚も貯まっていく。これらの表を見ながら、さらにスピーチや体験報告文に入れる自分の気持ちにぴったりの語彙を探す。

このような作業を繰り返して行くと、気持ち先にあって適切な語彙を探していたはずなのに、語彙表を眺めているとその時の気持ちが理解できるようになったといったことが起きてくる。自分でも十分にその時の気持ちが掴めていかなかったのだ。それを、みんなの使った感

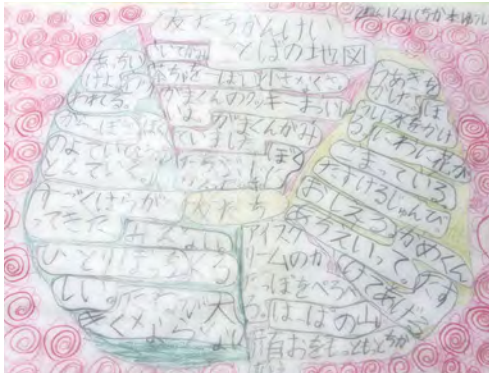
想語彙の中から発見する。「自分はこんな気持ちだったんだ」と認知する。「言葉↓気持ち」といった逆のベクトルが生じる。子どもたちの気持ちが豊かになったり、細分化されたりといったことが実感される。

2 語彙から作品の構造を捉える

このように感想語彙を自家葉籠中の物とした子どもたちには、作品を読んでいても感想語彙の言葉や種類が目に付くようになる。

二年生の「スイミー」を学習していると作品の展開構造を感想語彙で捉えるようになる。ご存じのように「スイミー」は、仲間たちを大きなマグロにのみされてしまうという負の状況からスタートし、回遊を重ねて元気を取り戻し、マグロを追い出す正の状況で終わるお話だ。

この作品は、冒頭部の状況設定の「たのしく」が、「ある日」の事件の発端から「おそろしい」「つつこんできた」「のこらずのみこんだ」「くらい海のそこ」「こわかった」「さびしかった」「とてもかなしかった」と負の状況を表す語彙に変わっていく。そして、「すばらしい」「おもしろい」「おもしろいもの」「ひるのかがやく光」へと転換していく。これらの語彙を作品から拾い出し、一枚の紙に状況を表す色とその配置を考えて書き出す。



すると、一目で作品の展開構造が捉えられる。この経験から、「お手紙」の学習でも負の状況から正の状況へ転換点を経

てハッピーエンドとなる展開構造を掴み、一枚の紙に語彙を書き出すことで辿ることができた。

そして、語彙を書き出すことで発見した「かなしいともだちかんけい」「たすけていることば」「うれしいともだちかんけい」さらに友だち関係を支えているユーモアあふれる言葉の「おもしろいことば」までを整理して



【友だち関係を表す言葉】に纏めることができた。

この【友だち関係を表す言葉】をアーノルド・ローベルの「ふたりシリーズ」二〇話を並行読書して継続して見つけることにした。

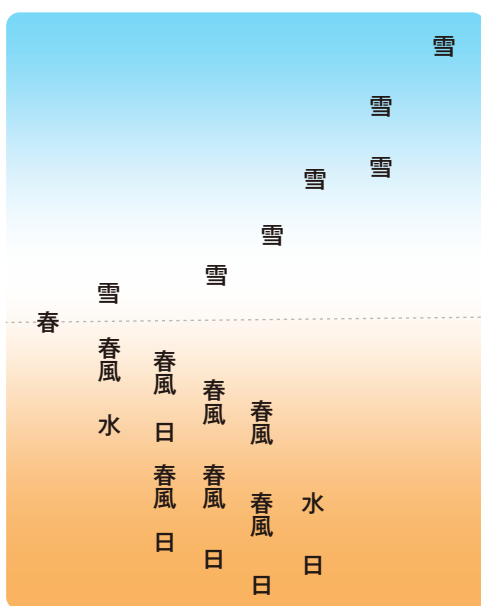
その作業にこそ、書写力が支えとなった。作品を読んでは付箋に語彙を素早く書き写し、今度はメモに重複や重要度を考えて整理していく。最後は、「ともだちかんけいのことばの地図」に丁寧な文字で仕上げる。

一作品だけでなく、アーノルド・ローベルの世界が語彙によって一覧できるものになっていた。

3 語彙としての漢字

今度は、漢字を軸とした作品構造の把握を「ふきのとう」の実践を例として取り上げる（但し、現行教科書の教材と実践当時の教科書とは漢字使用が異なっている）。

朝という漢字からは、「よる」から「ひる」へと流れる一日の時間の流れ（図①）が、また、雪と春という漢字からは季節の時間の流れ（図②）が、その頻出度から掴むことができる。



この構造図を画用紙やカードに丁寧に纏める。子どもたちは、これらを眺めながら二つの大きな時間の流れの中で作品を楽しんでいることを無理なく意識することができた。

今回は、低学年を取り上げて語彙指導と書写指導の連携の可能性について論じさせていただいた。



尾崎靖二

甲南女子大学教授・交野市教育委員。四條畷市・交野市の小学校長、中央教育審議会教科別専門部会委員、学習指導要領解説「国語編」作成協力者等を歴任。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

Q.

筆使いの指導をどのようにしますか？

1 筆使いの学習は、「正しく整えて書く」の基礎に

筆使いとは、毛筆で文字の点画の始筆、送筆、終筆などを書くときの筆の運び方や使い方をいいます。

適切な筆使いは、点画の正しさや、整った字形にも関連します。したがって、書写の目標である「文字を正しく整えて書く」ための基礎的な事項となります。

このたび改訂された学習指導要領の書写の低学年で、「点画の書き方や文字の形に注意しながら書く」ことの指導について、適切に運筆する能力の向上が求められています。そして、水書用筆等を使って運筆指導を取り入れるように示されています。これにより、子どもたちは『鉛筆とは異なる弾力性に富んだ筆記具で書く』という体験をすることになります。また、三年以降の毛筆学習へ円滑に移行させるため、低学年から筆の使い方や扱い方に関心を持たせることが大切です。

2 筆使いの学習の前に

筆使いの学習の前に、鉛筆の持ち方と比べて、筆の持ち方や運び方など、筆の持つ特性を体感させます。その後、筆を使って、いろいろな線を自由に書くことから始めます。

このような活動を通して、以下のような基本的な筆の扱い方に慣れておきたいものです。

●いろいろな線



●鉛筆の持ち方



●筆の持ち方

基本的な筆の扱い方

■穂先をほぐしたところまで墨をふくませる。



■穂先をそろえて書き始める。



■手首やひじを上げて、腕を動かす。



■筆の軸を傾けたり、手首を曲げたりしないで書く。



■筆圧の強弱によって、太い線や細い線が書ける。



筆圧強

筆圧中

筆圧弱



3 筆使いの要点

① 始筆の筆使い

点や画を書くとき、筆を入れるところを始筆といい、筆を入れる方向と、筆圧の指導が中心となります。

◎ほとんどの点画の始筆の角度は、左斜め45度の向きになる。

◎穂先から静かに筆をおろして、一度止め、書く方向を定めて送筆に移る。



◎点画によっては、筆圧の強弱が異なる。

「筆圧：強」

「筆圧：弱」



② 送筆の筆使い

始筆から終筆までの部分を送筆といい、「おれ」、「まがり」、「そり」などの筆使いの指導が中心となります。

■「おれ」

◎おれる部分で、筆を一度止め、それぞれの方向へ筆を運ぶ。

◎おれるところで筆の軸を回さない。

◎「おれ」と「まがり」の違いに気をつける。



「おれ」の種類

■「まがり」

◎送筆しながら筆を止めることなく、ゆっくりと筆を運ぶ。

◎筆圧、速さ、穂先の向きに注意する。

◎筆の軸を回さないように送筆する。



「まがり」の種類

■「そり」

◎「まがり」の筆使いと比較しながら、ゆるやかに、わん曲（弓なり）をえがくように筆を運ぶ。

◎始筆、送筆、終筆の部分の穂先の通り道に気をつける。

◎筆圧の強弱を意識する。

「そり」の種類



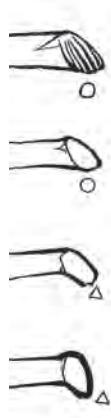
③ 終筆の筆使い

点画の終わりの筆使いをいい、「とめ」、「はね」、「はらい」の三種類があります。

■「とめ」

◎筆を止めたなら、ほんの少し返すようにして筆を離す。

◎ともすると、筆圧を加え、しつかり押さえてという意識で書くことが多いので気をつける。



「とめ」の種類

■「はね」

◎筆を止め、そのまま静かに穂先をそらせるようにして、筆圧を弱めながら、方向を定めてはねる。

◎はねるときは筆の軸を回さない。

「はね」の種類



■「はらい」

◎「左はらい」は、穂先をそろえるように、ゆっくり筆圧を弱めながらはらう。

◎「右はらい」は、筆圧を加えながら運んできた筆を一度止め、穂先をそろえるように筆圧をぬきながら、右横へはらう。

「はらい」の種類



4 指導のポイント

★筆圧や穂先の通り道など、筆の持つ特性に慣れさせる。

★筆使いが思うようにできない子どもには、手を添えていっしょに書くことで、安心と自信を持たせる。

★点画の始筆、送筆、終筆の筆使いの学びが、「文字をていねいに書く」ことにつながることを気づかせる。



みやもと しのぶ
宮本 栄信 (墨童)

元千早赤阪村立千早小学校校長。「墨童書道会」主宰。大阪府教育委員会指導主事、大阪府内の公立幼・小・中の校園長、大阪府市小・中学校書写教育研究会会長などを歴任。日本文教出版「小学書写」教科書編集委員。

やすみりえの五・七・五紀行

第一回

岡山県久米南町に行く

今回訪れたのは、岡山県の中部にある久米郡久米南町(旧・弓削町)。この地では、戦後まもない一九四九(昭和二十四)年に「弓削川柳社」という組織を立ち上げ、川柳によって町づくり、町おこしを続けてきました。最初は四人だけの会員も、今では六百人を超えるほどの規模に。

JR津山線の弓削駅前には、約一キロにもおよぶ川柳の散歩道「かっぱ横丁」が整備されていて、多くの川柳と愛らしいかっぱが、観光客を出迎えます。そんな川柳の町で、シンボルとされる「川柳公園」を散策してきました。

岡山県 久米南町



「川柳とエンゼルの里」の玄関口は、JR弓削駅。駅前広場には、町のマスコットキャラクター・カッピーがお出迎え。

川柳愛好家のなかでは、この川柳公園はよく知られた場所です。ですが、日頃「川柳」に馴染みのない方には初めて知っていただくのではないのでしょうか。公園内にはずらりと句碑が並び、それぞれに想いのこもった十七音が刻まれています。敷地の中の一番高台には、この町を一望できるテラスもありました。



かねてから行ってみたいと思っていた場所。歩いていくと、さまざまな句碑に心を奪われていく。

平成 29 年に建立した木もれび広場にある新しい句碑。美しい自然の景色になじむ。

鑑賞ポイント

大盃に君もほろ酔うたか月よ

句碑それぞれの赴きを楽しめるのも川柳公園ならではのだと思います。句碑の内容に合ったモチーフが描かれていて、黄色い月の色合いも目を引く一つになっていました。



川柳の里にある句碑を見ていると一句ごとに表情があり、五感で楽しめます。

やすみりえ

鑑賞ポイント

見守っておこう私も耐えた坂

句碑の立っている場所が木々に囲まれた坂の傍らにあるので、句の風景が目の前に広がっているのが楽しめます。川柳の味わいが一層深まりますね。



やすみりえ

川柳作家。神戸市出身。恋を詠んだ作品が幅広い世代から支持されている。多数の公募川柳の選者・監修を務める一方で、子どもたちへの川柳教室やワークショップを開催。文化庁文化審議会委員。(二社全日本川柳協会会員。)

DATA

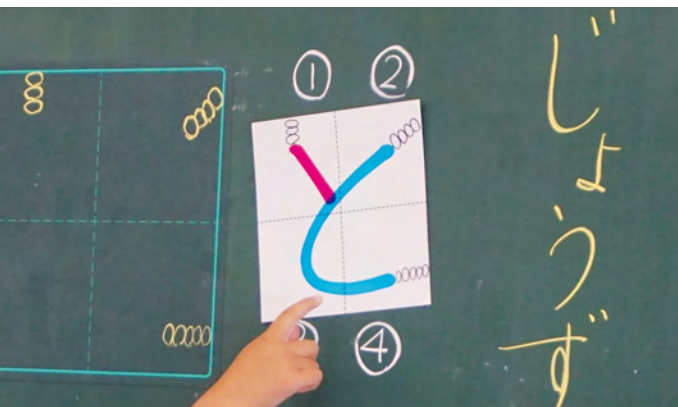
- 住所 岡山県久米郡久米南町下弓削
- アクセス JR山陽本線岡山駅で

JR津山線に乗り換え弓削駅下車、車で5分。
久米南町役場から車で5分。

山々々に囲まれた風景を眺めていると、澄んだ空気に触れることができ、思わず深呼吸したくなります。今回、公園だけではなくその周辺も散策。すると町ぐるみで川柳に取り組んでいらつしやるではありませんか！
例えば、和菓子屋さんでは川柳饅頭。図書館では川柳関連本の特別コーナー設置。弓削駅舎内には投句箱も置かれていましたよ。地元の皆様のご尽力がひしひしと伝わってきました。まさしく「文化は地域から」を、弓削町は実践されています。

主体的に学ぶ ひらがな学習

山口大学教育学部附属山口小学校
西村光博先生



一年生にひらがなをどのように教えた
らよいのでしょうか。
これまでの自分の指導を振り返ると次
のように指示していることが多かったで
す。「ここから書き始めるのだよ」「よく
見てよ」「右に少しあがって、ゆっくり書
くよ」。子どもにとっては、教師の書く文
字を見る、ポイントを知ること、受け
身の学習になりがちでした。どうにかし
て子どもが主体的にひらがなの学習に取
り組むことはできないでしょうか。

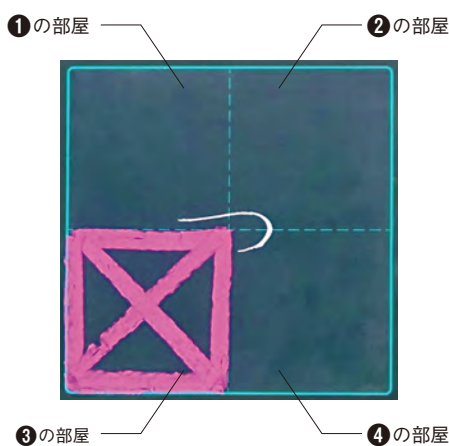
① みんなで ポイントを見つけよう

一年生のはじめてのひらがなの学習で
す。「今日からひらがなの学習だよ。上手
に書きたいよね。先生も上手に書きたい
んだ」と言って、黒板に「じょうずに書
きたい」と書きます。「お手本を見て書く
から見えていてね」と言って、あえて字形
の整わない「つ」の字を書いてみせます。
すると子どもは、「先生、全然だめだよ」
と言ってきます。
そこで、「先生、上
手に書きたいんだ
けどな。どうした
らよいのかな」と
言うと、子どもた
ちは「ゆっくり書
いた方がいいよ」「どこに書いてあるか見
た方がいいよ」などとアドバイスをくれ
ます。このように、子どもがポイントを見
つけて先生に伝えたいくなる状況を作る
というわけです。

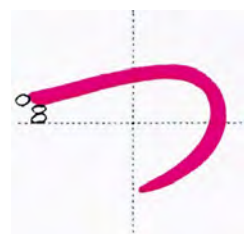


子どもたちからアドバイスをもらった
ら、アドバイスの通りにもう一度「つ」の
文字を書きます。ここで大切なのは、ア
ドバイスの通りに書くということです。つ
まり、アドバイスをもらっていない部分
は、お手本通りには書きません。そうす
ること、子どもたちの発言が変わって
きます。「この先生には、正確に伝えな
いとわかってもらえないぞ」と思い始め
るからです。

この時、子どもたちがくれたアドバ
イスは、「①番のお部屋から始まって、
②番のお部屋を通って④番のお部屋で
終わり」「③番のお部屋には何も書かな
いよ」というようなものでした。そこ
で、アドバイスの通りに、でも、お手本
より小さめに書きました。すると、子
どもは「違う、違う」「書き始める場
所が違う」と言います。そこで、「先
生は、君たちの言う通りに書いたのだ
けど…」「どうすればよいのかな」と
問い返すのです。すると、子どもは、



さらに分析的に「つ」の文字を見るよ
うになります。書き始めの位置につい
て「これくらいのお豆二つ分だよ」「こ
の線からお豆一つ分」と教えてくれま
した。「そうか、
ここから書き始め
るとよいね」と言
いながら、子ども
が発言したことを
「つ」のカードに
書き加えていく
とよいでしょう。後で、子どもがひら
がなを書くときの手がかりになるから
です。



このように、子ども自らがひらがな
を丁寧に書くためのポイントを見つけ
ることができるよう授業を仕組むと
よいのではないかと考えています。先
生に教えられたポイントではなく、自
分たちで見つけたポイントだからこ
そ、子どもたちは、ポイントを意識し
て書くようになります。

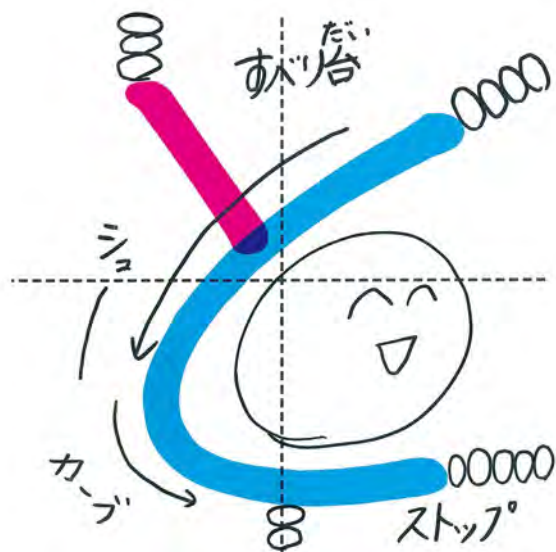
留意点

子どもが「上手に書くためのポイン
ト」を意欲的に見つけることができる
ようにするため、あえて字形の整わな
い文字を書く方法を紹介しました。た
くさんの子どもたちが、ポイントを発
表したくて挙手している状況になれ
ば、次の時間からは、字形の整わない
文字を書かなくてもよいでしょう。状
況に合わせて、手立てを行ったり、行
わなかったりすることが大切です。

2 ポイントをイメージできる言葉や図を使おう

子どもは、自分たちで見つけたポイントだからこそ、書くときも、そのポイントを意識して書きます。「赤ペンで書いた字をなぞりなさい」というよりも「さっき見つけたポイントできているかな」「○くんは、お豆、何個分って言ったかな」と声をかける方が、子どもは、ポイントを意識することができます。

子どもが、さらに、ポイントを意識して書きたくなる方法を紹介します。子どもが見つけたポイントをイメージしやすくなる言葉や図を使うという方法です。「と」の文字を学習していたときのことです。二画目の間に大きなマルが入るという子どもがいました。そのような発言



が出たときが、チャンスです。すかさず「このマル何に見える?」と問い返します。すると、「おまんじゅう」という答えが返ってきました。それを聞いていた周りの子どもたちの「本当だ」「おまんじゅうに見えるね」といった発言に合わせて、カードに書き込んでやるのです。おまんじゅうに顔を描くと、子どもは大喜びします。

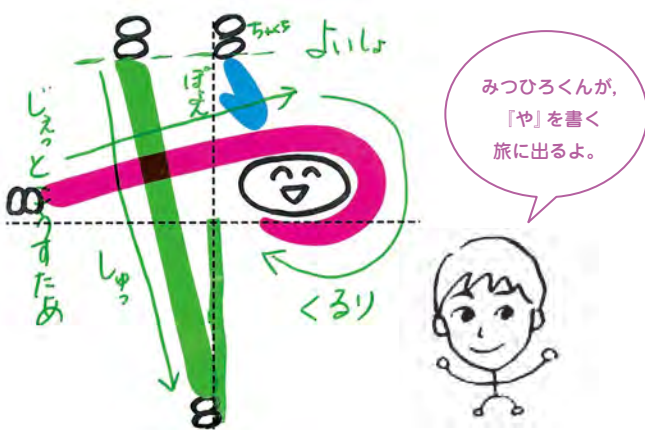
顔を描かないときより、描いたときの方が、おまんじゅうを意識して書く子どもが多いので、描くようにしています。二画目の間隔が開きすぎると、おまんじゅうが縦長になるし、間隔が狭すぎると、おまんじゅうがつぶれてしまいます。みんなで見つけたちょうど良い大きさの「おまんじゅう」を求めて、練習する子どもの姿がありました。

留意点

もし、「おまんじゅうじゃなくて、みかんだよ」と言う子どもがいれば、「みかんにも見えるね」「自分のプリントには、みかんの絵を描いてごらん」というように認めてやればよいと思います。子どもが、ポイントをイメージし、意識して書きたくなるようにすることが目的だからです。

3 鉛筆の動かし方もイメージしよう

鉛筆の動かし方についても、ポイントを意識して書きたくなる方法を紹介します。



鉛筆の動かし方をお話にする方法です。「みつひろくんが、『や』を書く旅に出るよ」。一画目、「よいしょ、よいしょ、坂を上るよ」「くるり」「ジャンプ」。二画目、「着地」「ぼよん」。三画目、「ジェットコースターだあ」「シュー、到着」。このように、鉛筆の動かし方をお話にして示してやると、子どもは大喜びします。楽しいからこそ、書くときにも意識して書く子どもが増えるのです。

留意点

大切なのは、動かし方のポイントをイメージできるようにすることです。から、あまり複雑なお話にする必要はありません。はらいであれば「シュッ」、とめであれば「ピタ」、というような擬態語を大切にするとよいと思います。



私は、これまで、分析的に「お豆○個分」「③のお部屋には、入らない」というポイント子どもが見つけることができれば、子どもは、丁寧な字が書けるようになると思っていました。しかし、「おまんじゅう」を描いたり、物語を作ったりするようになってからの方が、子どもは、よりポイントを意識して、丁寧に書いています。やはり、ポイントを示すだけではなく、そのポイントを子ども自身ものにするのが大切なのだと改めて感じております。

参考文献

「なぞらずにうまくなる子どものひらがな練習帳」(二〇二二) 桂聖・永田紗戀著 実務教育出版

課題解決を図る 学習過程への工夫

神奈川県横浜市立桜岡小学校
安間良子先生



子どもが主体的に課題解決を図っていくことができるよう、指導するうえで大切にしていることをいくつかご紹介します。

1 硬筆関連指導

毛筆を使用する書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導することから、硬筆関連の指導を心がけています。例えば、一単位時間(または単元)のはじめと終わりに硬筆を取り入れ、毛筆で学んだことが硬筆に生かせることを実感できるようにします。また、国語の言語活動や学校行事、実生活などと関連させて指導計画を立て、子どもが必要感を持って課題解決を図り、実生活や学習場面に生かせる良さを感じられるようにすることも大切だと考えます。

一単位時間の はじめと終わりに硬筆を取り入れた例 (三年 筆使いを学ぼうそり〜「心」)

硬筆関連の意識はもちろんですが、学習の見通しや振り返り、課題意識を持たせるために、学習カード(教師が作成)を使用しています。

学習のはじめに子どもたちが教科書を見ないで書いた「心」の多くは、その部分が曲がっており、ゆるやかなカーブで書くことができていませんでした。毛筆で自分の課題を解決するために練習した結果、学習の終わりには、その特徴のゆるやかに曲がっていくところに気を

つけて書くことができました。毛筆で学んだことが硬筆に生かされていることを、自分の学習過程を振り返って気づくことが大切だと考えます。また、「心」だけに終始するのではなく、他の文字へ活用できるようにすることが重要です。その部分を持つ漢字を教科書の巻末や辞典などから探して、その部分がどこに使われているかを確認したり、実際にそれを意識して他の文字を書いたりする場を設けることで、実生活や学習現場に生かせるようにすることを心がけています。

2 課題解決的な 学習過程による学び

現行の学習指導要領が改訂された際、その要点の一つとして、「学習の明確化」が挙げられました。自ら学び、課題を解決していく能力の育成を重視し、指導事項については、学習過程を明確化した内容になっていきます。書写においても、学習過程を明確にし、子どもが主体的に課題解決を図れるようになっていきます。

書写における一単位時間の展開例・課題解決的な学習過程	
① 教材の確認	● 本時で学習する文字(題材)を知る。
② 試し書き	● 教科書を見ないで題材を書く(硬筆・毛筆)。
③ めあての把握	● 本時の全体のめあてを知る。
④ 基準の確認	● めあてを達成するために必要な要素(基準)を話し合い、確認する。
⑤ 自己批評	● 毛筆の試し書きと教科書の文字を比較し、基準と照らし合わせて自分の課題を赤ペンで記入する ● 自分の課題を明確にし、自分のめあてを立てる。
⑥ 練習	● 自分の課題を解決するために、課題に応じた練習用紙(かご字・穂先の向きなど)を使って練習する。
⑦ 自己・相互批評	● 自分の課題が改善されているか、教科書の文字と比較して課題を再確認する。
⑧ まとめ書き	● 自己批評や相互批評で明らかになった課題を意識して、半紙(一枚)には毛筆で、学習カードには硬筆で書く。
⑨ 自己・相互評価	● 試し書きとまとめ書きを比較し、めあてが達成できたか(課題解決が図れたか)を確認する。
⑩ 硬筆への発展	● 本時の毛筆で学習したことを硬筆に生かす。

四十五分で①～⑩まで終えるのは時間的に厳しいので、二時間続き(九十分)で行うなど、時間を柔軟に扱うようにして、友達との学び合いも大切にします。四十五分で行う場合は、自己修正のみ(⑦)、自己評価のみ(⑨)にするなど、内容に軽重をつけます。

⑤ 自己修正の実際

試し書きと題材(教科書の文字)を比較し、基準に照らして自分の課題を見つける活動を大切にしています。ここで大切なことが二つあります。

一つ目は、自分の課題を見つけることです。課題の発見は、これからの子どもたちに必要とされる力ともいえます。自分の現状の文字の課題だからこそ自分ごととなり、主体的に課題解決を図ろうとする姿勢につながると考えます。教科書の「心」と自分の「心」の文字を見比べて、自分の文字のどの部分に気をつけて書けばよいかを明確にしていきます。

二つ目は、基準に照らして自分の課題を見つけることです。基準に関係なく、やみくもに課題を見つける活動となると、本時で身につけたい力にぶれが生じます。自分の課題が明確になったら、自分のめあてを立てるようにします。今回の学習活動では、「心」のその部分に着目していくこと、そこが基準であることを確認し、「心」の全体を見るのではなく、その部分に特化して学習していくことで、課題解決の視点が、より明確化していきます。

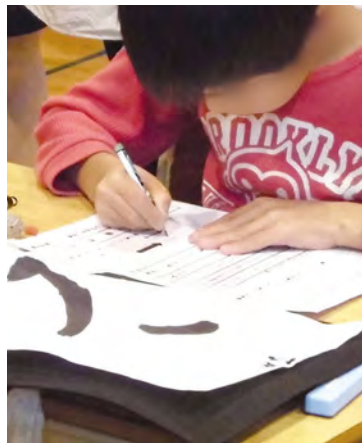
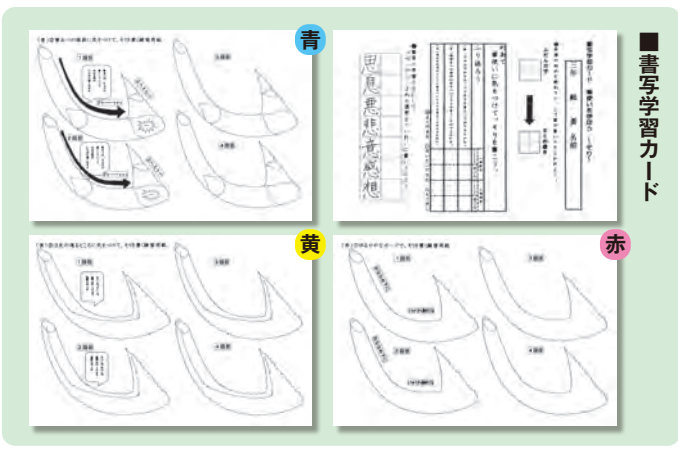
⑥ 練習用紙の工夫

課題別に練習用紙(かご字や穂先の向きなど)を作成しておき、個々の課題に応じた練習用紙を選んで練習できるようにします。練習用紙で自分の課題解決のコツがつかめてきたら、半紙で練習するようにします。次の三つの課題解決ができる練習用紙を用意しました。

赤……ゆるやかなカーブでそりを書くことができる。

青……筆圧の強弱に気をつけて、そりを書くことができる。

黄……穂先の通るところに気をつけて、そりを書くことができる。



⑨ 自己・相互評価の実際

自分の課題に応じた練習、修正、まとめ書きを終えたら、試し書きとまとめ書きを比較し、自分のめあてが達成できたか(自分の課題が解決できたか)を自己・相互評価します。比較することで、学習の成果(課題解決の度合い)が目に見えるわかり、自分の文字の変容に子どもたちは驚きます。また、課題を解決できた喜びや達成感が、次への学習意欲にもつながります。



3 指導を終えて

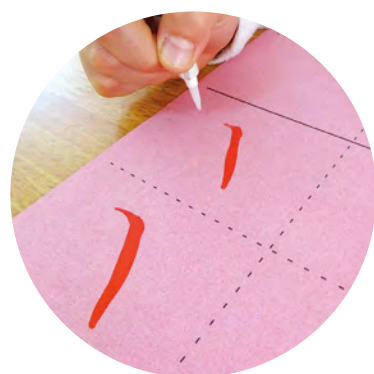
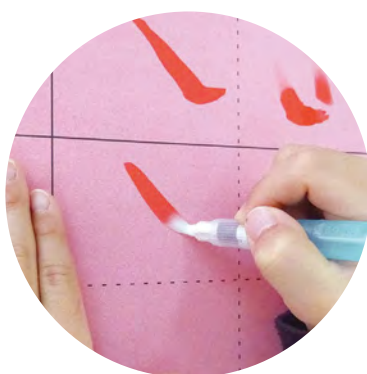
誰もがきれいな文字を書きたい、うまくなりたいと願っています。四月に三年生の児童に聞くと、ほぼ全員が毛筆書写の授業を楽しみにしています。しかし、学習が重なるにつれて、準備と片付けの煩雑さや用具の扱いの難しさ、それに加えて、なかなかうまく書けないなどの理由から、気持ちが離れていく児童も少なくありません。そのような中、「心」の文字全体を課題にするのではなく、その部分に着目して学習すること、自分の課題解決に合った練習を自分で選択して行うこと、試し書きとまとめ書きの文字を自己・相互評価して、課題解決ができた喜びや充実感を得ることを学習活動に組み込むことにより、子どもたちの書写への意欲は持続されるのではないかと思います。

4 書写の指導から、日頃の学習活動へ

書写の指導を日頃の学習活動に還元していくことで、書写を学ぶ意義をより感じることができると思います。書写学習のときの毛筆学習を行う姿勢は意識を高く持っているが、普段の書字の姿勢や鉛筆の持ち方は意識を高く持てなかったり、書写で学習したことが、書写学習のみで完結してしまったりすることのないようにしていきたいと考えます。また、他教科の学びにどのようにつながっているかを、子どもたちと教師で確認することが大切だと考えます。

水書用紙を使った 書写学習について

奈良県生駒市立生駒南第二小学校
諸岡恭子先生



1 一年生に、水書用紙を 活用した学習を実施

今回は、一年生の『かん字』『せんのおわり』『とめ・はね・はらい』の単元の学習で、水書用紙を活用した学習を行いました。筆は、水彩画で使用する「水書用筆」を使用して学習を進めました。

「小」「大」の漢字の線の終わりに注目し、「とめ」「はね」「はらい」の特徴を子どもたちに聞きました。すると、「はね」は、「ぴよんとはねる」という答えが返ってきました。「はらい」については、「だんだん細くする」という答えが返ってきました。そこでこちらから、上にぴよんとはねあげた「はね」や左はらいと同じような「右はらい」などの悪い線の例を示しました。すると、「それはあかん」と言い、自分たちの言葉でいろいろな説明をしてくれました。そして、「はね」は「一回とまって、ゆっくり横にはねる」「右はらい」は「だんだん太くして、一回とまって、三角の形のようにはらう」とまりました。

2 説明後に、 自分たちで確かめる実技へ

次に、自分たちの線の終わりがきちんと書けているか、水書用筆を使って確かめようと実技を始めました。

「これ、使ったことある」という子どももいましたが、初めて水書用筆を持つ子どもも多く、不安げな様子も見られまし

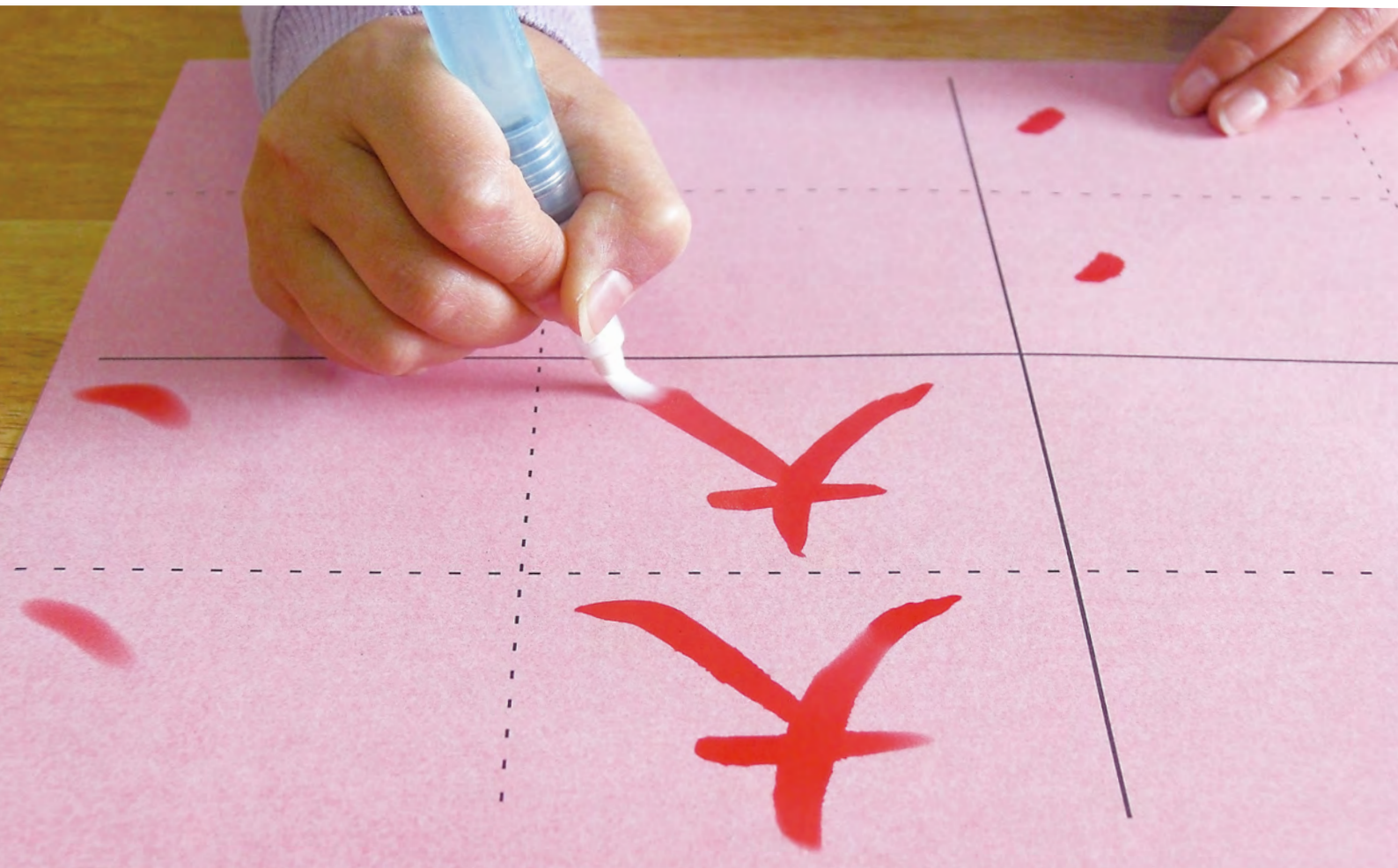
た。まずは、姿勢や鉛筆の持ち方を確かめ、同じ持ち方で書くことを伝え、書き始めました。

なかなか納得できる線が書けないように、何度も何度も練習していました。力が入りすぎていたり、正しい持ち方がで



きていなくなったりすると、なかなかうまく書けないようでした。しかし、水書用紙は、うまく書けなくても消しゴムを使わずにどんどん書き進めることができ、途中であきらめることなくうまく書けるコツを進んで学んでいました。

これまで水書用紙を使った学習は、二年生の三学期、三年生の初めての毛筆指導で行ったことがありました。
水書用紙を活用することで、すぐに書き始めることができ、筆の持ち方や特長をじっくり学習することができました。何重の渦巻きが書けるかに挑戦すると、こちらから指導しなくても、子どもたちの筆の持ち方はどんどんよくなっていきました。こちらが一番大切にしたいと思っている「筆を立てて、腕を大きく動かして書くこと」ができました。



二期の十二月の取り組みでしたが、一年生のスタートの絵を活用した線描きの練習から筆を使うと、もっとわかりやすく線の違いを学習できるのではないかと感じました。そして、水書用筆を使って正しい線を書こうとしていくことで、正しい鉛筆の持ち方も身につくのではないかと感じました。また、三年生の初めての小筆指導のときにも水書用筆や水書用紙を活用すると、スムーズに指導できるのではないかと感じました。

3 正しい持ち方で正しい線を書こうとするんだよ



水書用紙・水書用筆とは？

平成二十九年に公表された新学習指導要領解説 国語編に、「水書用筆等」の文言が明記されました。

水書用筆は、弾力性に富み、扱いやすい筆記具です。また、併せて使う水書用紙は、水に濡れると色が変わり、乾くと元に戻るという特性があります。

何度も練習できること、汚れを気にしなくてよいことから、低学年の子どもたちにぴったりの練習用具として、注目を集めています。



奈良筆

(奈良県奈良市)

約一二〇〇年の伝統を受け継ぐ
日本の筆づくりの原点へ

目指せ!
文房四宝博士

①

奈良県 奈良市



九世紀の初めに中国から日本に筆が伝わり、本格的に筆づくりが始まったといわれている奈良。日本の筆づくりの起源であり、今も筆づくりが続いている場所です。今回は、その原点を訪ねてみました。

奈良は筆づくり発祥の地として、盛んに筆が作られています。国の定める伝統的工芸品である奈良筆は、その歴史を継承しながら高い品質を守りぬくことで、書家や専門家を中心に高い評価を得ています。そこで、より深い筆の魅力を探るために、江戸時代から続く老舗の筆専門メーカー「あかしや」にて詳しく話を伺ってきました。

現在、奈良では八名の伝統工芸士が、奈良筆を作っています。その一人であり「あかしや」で作業をする伝統工芸士の松谷文夫さんは、この道四十年の大ベテラン。筆の製造は、すべて一人の手作業で行っていて、製造できる本数は、ひと月で五百本を超える程度。今日は楠抜き、明日は芯立てなど、自分で工程を分けてロット単位で作業をしていくので、生産量をはかるのも難しいといえます。

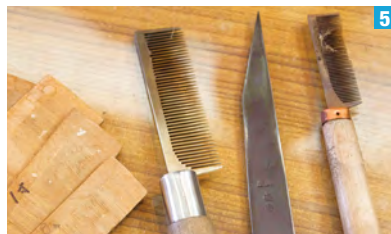
筆の原料には、山羊、狸、鹿、馬、イタチ、ムササビなど、獣毛を用います。動物の種類や採取時期、体毛の部位などによって、仕上がりが変わるといいます。



1 奈良筆の伝統工芸士、松谷文夫さん。当日は、筆に糸を巻き、余分な布海苔(ふのり)を絞り出す作業中。形を整えて乾燥させる仕上げの段階に。2 作業場には、山羊のはく製が。最も高級な筆は、山羊の獣毛を使用。しかし、低価格の筆にも山羊を。体毛の部位によって価格が大きく違ってくるといいます。ちなみに、大きな筆のほとんどは、長さのある馬の毛を使います。



3 上から、一條秋水1728円、月光1620円、墨妙3240円、飛火野1080円など、半紙用の筆。4 一般的に多いのは、太筆なら山羊、細筆ならイタチの獣毛。5 昔から変わらない筆を作るための道具。筆の長さを計るのは木でできた「すんぎ」。毛並みを整える「金櫛」。6 筆づくりに使われる獣毛。左上より、リス、ムササビ、イタチ、狸、猿、豚、牛、天尾(馬の尾)。左下より、キツネ、山羊、猫、馬(胴毛)、スカンク、鹿、ウサギ。



奈良筆ができるまで



1 櫛抜き

毛に櫛を入れて根元のわた毛を取り除き混ぜ合わせる。



2 毛もみ

もみからの灰をふりかけ、炭火で暖めてくせ毛を直す。



3 つめ抜き

指先で少しずつ毛を抜き取りながら、毛先を揃える。



4 先揃え

手金の上にまとめて置き、板で叩いて毛先を揃える。



5 逆毛抜き

はんさしという刃と指で、逆毛を抜いて選毛していく。



6 寸切り

毛の性質に合わせて、それぞれの毛の長さに切る。



7 平目合せ

寸切りで切り分けた毛（平目）を合わせる。



8 練り混ぜ

平目をバラつきや片寄りがないよう何回も練り混ぜる。



9 芯立て

作る筆の穂の直径に合わせてコマ（小さな筒）に毛を通す。



10 上毛かけ

うすくのぼして広げた上毛を芯に巻きつける。



11 おじめ

焼ごてを穂の尻にあて根元を焼き固め、麻糸で締めて結ぶ。



12 のり入れ

かための筆は、さらに布海苔の液につけ内部まで沁み込ませる。



13 なぜ

毛で布海苔を絞り出しながら、穂先を整えていく。



14 完成

乾燥すればできあがり。

7 高級な筆だと 50 万円をこえるものも。8 ショールームには大小さまざまな筆が並び。9 薬師寺におさめられた「月光菩薩開眼筆」。



奈良筆は、原毛を個別にひたして固め、作ろうとしている筆の特徴によって獣毛の配分と寸法を決める「練り混ぜ法」が特徴です。「一本の筆に複数の獣毛を混ぜて、筆の個性を出していきます。獣毛は、何十頭もの動物の毛を集めてはらし、均一の品質にしていって作業からはじまります。動物によって毛質の弾力や強弱は異なり、長短などを組み合わせるといく作業は、筆匠の経験と目利きなくしては難しいものです」と松谷さんは語ります。味わい深い穂先の仕上がりは、まさに原材料である獣毛との対話から生まれているのです。

松谷さんは、伝統工芸士として奈良県内の小学校を訪れて、奈良筆について語る機会が年二十回程度あるといいます。その場では、小学生に筆づくり体験をしてもらって、伝統工芸を肌で体感。興味を持った子どもたちから質問の声飛び交うといいます。「この仕事って儲かるの？一日に何本くらいできる？」など、率直

な質問が多いですね。伝統工芸のような手作業の仕事は衰退していきまますから、子どもたちに知ってもらうことは意味がありますよね」と、文化を継承する役目も担っています。

せっかくなので、子どもたちにとって使いやすい筆とはどのようなかを聞いてみると、「小学生の書写は、上達するまでは力の加減が難しいものです。なので、太筆は真ん中から先端に弾力があるもの。細筆は先端に弾力があるものが望ましいですね。価格帯はさまざまですが、高級な筆を使ったら良い字が書けるといっわけではありません。使いこなすことが大切なので、初心者の方には千円前後の筆から十分だと思えますよ」。まずは書道セットに入っている最低限の道具で始めて、筆の太さ細さ、書きやすさなど、自分にぴったりの筆を探るのがいいということ。実際、筆を見ただけでは、プロでも良し悪しはわからず、使ってみて初めて自分の技術や書く文字に合っているかを実感できます。

手入れについては、筆の使用後は墨を落とし後に形を整え、そのまま乾燥させます。そして、竹のすだれに巻いて風通しよく保存するのが望ましいといえます。筆は、穂先

DATA

株式会社あかしや



奈良筆をはじめとした書道用筆、天然竹筆ペン、化粧筆を販売する筆専門メーカー。本社ショールームでは、伝統工芸士の作業現場を見学できます。(要予約)

●住所：奈良県奈良市南新町 78-1
●電話：0742-33-6181

毛がとても大切で、その毛があるから、美しくまとまります。筆の寿命は、毛先があるかどうか。まとまりが悪くなってきたら、それはハケと同じ状態になっているので、新しい筆に変えるタイミングです。

もともと書道は東洋の文化なので、アジア圏を中心に筆が製造されています。中でも、日本で作っている筆はクオリティが高いといわれます。「先日、わざわざヨーロッパから買いに来られた外国人の方が、日本の筆ほど、繊細な表現ができるものはないと言っていました」と誇らしく語る松谷さん。奈良筆は、これまで多くの筆匠が文化や技術を伝えてきたことによって、一二〇〇年の歴史を途切れさせず、現在もお愛され続けているのです。

連載 第十回
コンドウアキの
書写的
生活



同じ文字を書いても、人によって微妙な違いが出てくるものです。古くから、書は人なりといわれ、文字を見れば人がわかるといわれてきました。書いた人の個性まで感じ取ることができるのも、手書き文字の魅力ではないでしょうか。

コンドウアキ
キャラクターデザイナー・イラストレーター・作家。「リラックマ生活」シリーズのほか、「うさぎのモフィ」、「みかんぼうや」シリーズなど著作多数。文具メーカー勤務を経てフリーとして活躍する傍ら、一児の母として育児に奮闘中。

Produce:STORE Art Direction & Design:ad detective QUEST

line 線

2018 No.10

日文教育資料[小学校書写]
平成30年(2018年)2月28日発行
編集・発行人 佐々木秀樹
発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

題字・新谷泰鵬

CD33383

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690